

クラスターが発生しなかった施設のアンケート調査結果

○誹謗中傷へどのように対応しましたか

- ・誹謗中傷を止める事は非常に難しく、時間が経過し沈静化するのを待つしかなかった。窓口は、施設長とし、家族からの苦情（誹謗中傷）については謝罪に出向き対応した。
- ・電話を受けた職員が傾聴し謝罪。それでも納得できない方には施設長が対応した。不安を与えてしまったことへの謝罪と状況報告を定期的にさせていただくことを伝えた。
- ・問い合わせには丁寧に対応、その後職員間で共有した。

○職員のストレスや不安に対しどのように対応しましたか

- ・毎日ミーティングを開催し正しい情報を提供した。重要な情報は掲示した。職員へメッセージ付きの差し入れをしてコミュニケーションを図った。
- ・陽性判定利用者は入院となり、「陽性者」が施設内にいない状況にも関わらず、職員の不安は大きかった。ゾーニングを実施しているユニット内で働く職員は限定となるため、ユニット内の限られた少人数で通常の業務をこなしながらプラスで感染経路別対策をおこなわなければならない、そこで働く職員の精神的・身体的負担は大きかった。
- ・感染区域内に立ち入ることはできないが、物品の搬入や食事の配膳など清潔区域で行う業務への応援に入るなどできる範囲でのフォローを行い負担が集中しないよう配慮した。
- ・後日、対応の振り返りを行い各職員の”思い”や”意見”を言葉に出してもらった。振り返りを行うことで、対応にあたった職員の苦労や頑張りを他職員に知ってもらえ、労りや励ましの声があり、施設全体の意識統一に繋がった。
- ・現状報告、取り組みを確認できる施設内の掲示板にて情報の共有を図り、不安を軽減した。
- ・毎日ミーティングを行い、出勤職員には感謝を伝えた。自宅待機職員は毎日の体調チェックの報告をお願いし、体調や心のケアをできる限り行った。全職員に現状を一斉メールにて伝えていた。
- ・レッド、イエロー、グリーンをタブレットでつなぐとともに、主な4名により連携と情報の共有化を図った。感染対策の中心役割の職員が夜間も一回確認に来た。

○（振り返って）クラスターを阻止できた理由は何だと思えますか

- ・嘱託医の医療機関から感染症対策専門チームが介入してくれたことで一人一人の行動が重要であることを意識づけることができた。そのため職員が一丸となって対応できた。
- ・施設内感染症警戒レベルに従い、感染症対策の周知徹底を日頃から全職員に行っていたこと。
- ・職員一人ひとりが適時出される感染症の情報にしっかり耳を傾け、実行していたこと。
- ・新型コロナウイルス感染症の基本情報や備えることの必要性をしっかり職員に伝え、防護服の着脱方法などの実践的研修も実施していたため、「陽性者」がでて、慌てず対応することができた。
- ・日々の感染対策。施設内、フロア内の協力協同とFICTの指導を遵守し対応したこと。
- ・デイ利用者が持ち込んでしまったが、介護施設職員としての責務として、基本的な対策を理解し職員は行動制限を継続していた。
- ・職員各自の管理の徹底とPPEの着用（脱ぐときに一番気を付ける）、ゾーニングの対応
- ・感染対策の徹底（検査、手洗い、マスク、ゴーグル等、早期のPCR検査の実施、職員指導）
- ・①初期対応②レッド、イエロー、グリーンを入口～出口まで全て分けた③あらかじめBCPによりシミュレーションし、全職員の情報共有ができていた。